

できない人代表

医学研究所北野病院 小児科 水本 洋

私は赤ちゃんが苦手です。正確には数学が苦手ですという学生と同じように、新生児を診療する自分に自信がありません。私が大学を卒業した1999年には初期研修制度がなく、卒業直後から小児科医として働き始めました。大学病院で1年間研修を受け、血液疾患に興味を持ちました。2年目から赴任した病院では小児科医が5人おり、何週間かに1回まわってくる「新生児当番」が嫌で仕方ありませんでした。心雑音のある子どもを翌週の循環器外来に紹介したら、週末にショック状態で搬送されてきました。生後2日目の嘔吐の子に絶食指示を出して、翌朝出勤すると夜中に緊急手術になっていたことを知りました。何を聞かれても自信がなく、沈黙の多い私の乳児検診は「お見合い」と呼ばれていました。そしてある日、緊急帝王切開の立ち会いに呼ばれ、重症仮死の赤ちゃんを初めて目の当たりにしました。手の震えが止まらず、無力感と絶望を強く感じたことを今でも鮮明に覚えています。

小児科医を続ける自信を失いかけていた私に、NICU研修の機会を与えて頂きました。研修初日に重症仮死の立ち会いがあり、先輩医師のバグマスク換気「だけ」で回復した赤ちゃんを見て、「これなら自分にもできるかもしれない」と感じました。2か月半の研修を終え、新生児診療に対する苦手意識はある程度克服できました。小児科の中でもNICUは特別な領域と思っていましたが、「全身を管理する」「症状を訴えない相手の問題点を見抜く」「成長発達を支援する」というポイントは、小児科医に求められる素養そのものだと気づきました。

北野病院で新生児部門を担当して16年になります。今でも手技は不得手で、考え方もアバウトな自分が責任者を続けているのは申し訳なく思えますが、優秀な仲間たちの力を借りながら何とかやっています。「できない人」という自覚があるからこそ、常に慎重に考え、対策を講じることができるのかもしれないかもしれません。気管挿管が難しいかもしれないからこそ、声門上気道器具を学んでほしい。重症仮死の赤ちゃんを経験して自信を失うことがないように、シミュレーションを重ねてほしい。そんな思いから、2年前にYouTubeで情報発信を始めました。

NICUで診療したこどもたちは高校生になり、その後の世界を知ることで新生児医療の面白さを見つけました。小児科のどの分野に進むにしても、NICUでの経験は貴重なものになると思います。

[著者略歴] **水本 洋** (みずもと ひろし)

島根県出身

1999年 京都大学医学部卒業 京都大学医学部小児科

2000年 医学研究所北野病院小児科

2004年 東京女子医科大学東医療センターNICU

2006年 京都大学医学部小児科

2008年 医学研究所北野病院小児科

2022年 蘇生系 YouTuber として情報発信開始

小児科専門医・指導医 新生児専門医・指導医

～DEI 推進委員会より～

Vulnerability(脆弱性)こそリーダーシップの核心

Vulnerability とは脆弱性とか心の弱さという意味であり、社会福祉学者 Brené Brown の研究によりその著書や講演を通じて広く知られるようになりました。リーダー自ら失敗や不安をさらけ出すことで、メンバーも安心して意見を言いやすくなりチームの心理的安全性が高まって、チーム全体の創造性や問題解決能力が向上するのだそうです。他人に弱さを見せるということは難しい、勇気のいることでもあります。そうすることでメンバーに共感性や信頼が生まれ、クリエイティブで感情的知性(EQ)の高いチームに成長できるということです(TED Talks 2010, Daring Greatly 2012)。

私たち医療者は日々、不確実性やリスクに直面しながらそれにどう向き合っていくべきかを問われています。時に厳しい場面に遭遇するからこそシミュレーション教育を大切に、水本先生のエッセイは Vulnerability の力をまさに体現していると言えるのではないのでしょうか？

責任編集

DEI 推進委員会